

## 上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（若手研究）

研究代表者 所属・職名 附属小学校・教諭

氏 名 小林 健太

研究期間 平成29年度

研究プロジェクトの名称	豊かな国際感覚を育む、小学校外国語教育～世界のあそびに着目して～
研究プロジェクトの概要	<p>本研究は、「21世紀を生き抜くための能力+α」向上のために、世界のあそびに着目し、様々なあそびの体験とあそびを通じた国際交流の充実、国際感覚を育むことを中核に置いた外国語科の授業実践を行い、小学校外国語科の単元開発を行った。外国のあそびの体験やあそびを通じた交流によって外国語活用場面の充実を図り、さらには言語を含んだ異文化理解を進め、21世紀に求められる柔軟な国際感覚の素地を育むことを主眼に置いた授業実践を行った。</p> <p>平成32年全面実施の小学校学習指導要領に向けて、教育界の英語教育に対する関心は非常に高まっている。一方で、子どもの生活には、外国語を活用したい、学びたいと感じる体験や経験が多くないにもかかわらず、英語のスキル習得を主眼に置いた授業実践が行われてきている現状があり、今後もそのような流れになっていく傾向があると予想される。21世紀を生き抜くための国際感覚は、多様な文化との出会いや、国や言語の壁を超えた人と人との交流によって育まれると考える。子どもの視点に立って授業をつくり、英語のスキル習得にとどまらない学びの広がりを見出していくことに本研究の意義がある。</p>
研究成果の概要	<p><b>子どもの姿から</b></p> <p>Aさんは、韓国の方に教えていただいた「ユンノリ」という遊びに興味をもち、様々な外国からのお客さんに教えて、一緒に楽しもうとした。一緒に楽しむ中で、英語のよさに気付いたAさんは、協定協力校の台湾の嘉義大学附属小学校や、オーストラリアのウェストミンスター校の訪問生とのかかわりでも、自分から英語で話し掛け、交流しようとする姿があった。</p> <p><b>成果のまとめ</b></p> <p>子どもは、外国からのお客様に対して、その方の母語でかかわることが大切であると考えている。しかし、英語を用いることで、どの国の方とも交流することができることに気付いた子どもは、英語を学ぶことの価値を見出した、</p> <p>世界には様々なあそびがあることに子どもは気付く。日本には日本独自のあそびがあり、それぞれの国にはその国ならではのあそびがある。ただ、どんな遊びでもその仕組みやルールを理解すれば、言葉が理解できなくても共に楽しむことができることに気付いた。</p>
研究成果の発表状況	「世界のとらえやことばのとらえをつくり出す子ども～『あそび with』の活動から～」 「教育創造」第186号 高田教育研究会
学校現場や授業への研究成果の還元について	上越教育大学附属小学校2017年研究会において、活動公開を実施した